

第2回

安芸太田町かわまちづくり協議会次第

令和8年4月24日（金）

14:00～16:00

安芸太田町役場本庁 東館2階 大集会室

1. 開会

2. 議事

（1）本日の内容

（2）前回の振り返り

（3）かわまちづくり計画の素案について【内容確認】

（4）拠点間連携や全体コンセプトについて【意見交換】

3. その他

4. 今後の予定

5. 閉会

第3回安芸太田町かわまちづくり協議会 出席者

役職	団体等	役職	氏名	備考
会 長	安芸太田町 道の駅推進チーム	担当課長	瀬川 善博	
副会長	(一社) 地域商社あきおおた	事業本部長	寶珠 真一	
	温井ネットワーク協議会	会長	佐々木 克己	
	(一社) NUKUI OUTDOOR FIELD	代表理事	福田 真弓	
	地縁団体温井徳行会	会長	斉藤 正晴	
	津浪振興会	会長	末田 健治	
	ぷらっとホームつなみ	店長	栗栖 誠	欠席
	太田川上流漁業協同組合	代表理事組合長	岡田 重男	欠席
	安芸太田町 PTA 連合会	会長	藤井 将和	欠席
	安芸太田町商工会	事務局長	末國 浩二	欠席
事務局	安芸太田町	参事	三浦 道人	
	安芸太田町	参事	下村 佳世	欠席
	安芸太田町 道の駅推進チーム	主任	久保 千晶	
	安芸太田町 道の駅推進チーム	主任	大前 龍太	欠席
	国土交通省中国地方整備局 太田川河川事務所			アドバイザー
	国土交通省中国地方整備局 温井ダム管理所			アドバイザー

安芸太田町かわまちづくり協議会規約（案）

（名 称）

第1条 本会は、「安芸太田町かわまちづくり協議会」（以下「協議会」という）と称する。

（目 的）

第2条 協議会は、太田川の更なる魅力向上を図り、地域活性化に繋げることを目的とした「かわまちづくり計画」（以下「計画」という。）の策定及び推進に必要な事項を検討することを目的とする。

（事 業）

第3条 協議会は、次に掲げる項目について協議を行う。

- （1）計画及び計画の推進にかかる具体的な施策の立案に関すること。
- （2）施策の実施状況の評価、計画の点検及び見直しに関すること。
- （3）その他かわまちづくりの推進に関すること。

（組 織）

第4条 協議会は、別表に定める団体よりそれぞれ1名を選出された者（以下「委員」という。）により組織する。ただし、協議会の中で了解を得た上で、運用上必要な委員の追加及び変更ができるものとする。

2 協議会にアドバイザーを置くものとし、アドバイザーは国土交通省太田川河川事務所及び温井ダム管理所とする。

（会長及び副会長）

第5条 協議会に、会長及び副会長各1名を置き、それぞれ委員の互選により、定める。

- 2 会長は、会務を総括し、協議会を代表する。
- 3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

（任 期）

第6条 委員の任期は、第3条に規定する事業が完了するまでとする。

（会 議）

第7条 協議会の会議は、会長がし、会務を進行する。

- 2 会長は、必要があると認めるときは、委員以外の出席を求めることができる。
- 3 会議は、委員の過半数が出席しなければ、開くことができない。

（ワーキンググループ）

第8条 会長は、協議会の事務を処理するにあたり、必要な事項を検討するため、ワ

ーキンググループ（以下「検討会」という。）を設置することができる。

- 2 検討会の所掌事務は、計画に関する構想の立案及び施策の推進検討とする。
- 3 検討会の委員は、会長が計画の推進に資する団体等から候補者を選出する。なお、委員は、協議会の委員との兼務を妨げない。
- 4 検討会は、会長が必要に応じて招集する。

（事務局）

第9条 協議会の事務を処理するため、安芸太田町道の駅推進チームに事務局を置く。

（その他）

第10条 この規約に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は別に定める。

附 則

この規約は、令和8年2月19日から施行する。

○安芸太田町かわまちづくり協議会 構成員

温井ネットワーク協議会	会長	
地縁団体温井徳行会	会長	
(一社) NUKUI OUTDOOR FIELD	代表理事	
津浪振興会	会長	
ぷらっとホームつなみ	店長	
太田川上流漁業協同組合	代表理事組合長	
安芸太田町 PTA 連合会	会長	
安芸太田町商工会	事務局長	
(一社) 地域商社あきおおた	事業本部長	
安芸太田町	道の駅推進チーム 担当課長	

第2回安芸太田町かわまちづくり協議会 説明資料

令和8年4月24日

- (1) 本日の内容
- (2) 前回の振り返り
 - ・ 第1回協議会の開催状況と主な意見
- (3) かわまちづくり計画の素案について【内容確認】
 - ①計画概要
 - ③利活用・整備計画（各地区における整備・利活用イメージ）
 - ④維持管理計画（国、町、地域住民・事業者の役割分担イメージ）
- (4) 地区間連携や全体コンセプトについて【意見交換】
 - ・ 意見聴取シート、地区間連携についての意見交換会でいただいたご意見
 - ・ 地区間連携イメージ
 - ・ 全体コンセプト
- (5) 今後の予定

1.本日の内容

【今回の目的】

- ①確認すること： かわまちづくり計画の素案（計画概略、利活用・整備計画、維持管理計画）…p3～14
- ②ご意見が欲しいこと： 地区間連携のアイデア…p15～17、 全体コンセプト…p18

■これまでの経緯と申請までの流れ

【温井地区】

H16.4「温井ネットワーク協議会」設立。地域活性化・地域連携の取組開始
H20「温井ダム水源地域ビジョン」策定
H25「龍姫湖湖面利用に関する暫定運用」策定 湖面利用の取組スタート

令和3～4年度

R3～湖面利用に関する地域の要望を受け、かわまちづくり計画検討開始

R4.9～湖面の民間活用に向けた社会実験開始（R4～R6年度）
（ウォーターアクティビティ、飲食・物販、情報発信、受入環境整備、イベント開催等）
R4.10「龍姫湖利用協議会」設立

令和5～6年度

R5「Lake Ryuki Water Complex」設立

R6.4 インフラツーリズム魅力増進プロジェクトに温井ダムが選定
R7.3 都市・地域再生等利用区域指定（湖面利用オープン化）
R7.6 「（一社）NUKUI OUTDOOR FIELD」設立

令和7年度

R7.8 温井地区かわまちづくりワークショップ実施

R7.10～インフラツーリズム社会実験開始（見学放流ツアー）

R8.2「安芸太田町かわまちづくり協議会」設立・第1回協議会開催 ※現在までの検討状況の確認、意見聴取

R8.4.10 地区間連携に関する意見交換会 ※「かわまちづくり」の取組を通じた地区間連携・社会実験について意見交換

R8.4.24 第2回協議会（本日） ※かわまちづくり計画素案の確認

↓ いただいたご意見を踏まえ計画書案を修正

R8.5～6 第3回協議会開催（予定） ※かわまちづくり計画の確認・承認

R8.6 かわまちづくり計画書申請（予定）

【津浪地区】

H23～「ぷらっとホームつなみ」開設
H28 農林水産省『第3回ディスカバー農山漁村（むら）の宝』に選定
R3 「津浪の棚田」が農林水産省『つなぐ棚田遺産』に選定

・棚田作業の受託、棚田ブランド米生産の取組

・広島市内の大学と連携した棚田ビオトープ作り

・希少植物（ホソバナコバイモ、カタクリ）の保護活動

・ラフティング等の川遊び、あまごのつかみ取りなど、太田川を活用したイベントの実施

R7.7 津浪振興会へのかわまちづくりに関する意見聴取

R7.11 ぷらっとホームつなみへのかわまちづくりに関する意見聴取

令和8年度

2.前回の振り返り

第1回 安芸太田町かわまちづくり協議会

日時：令和8年2月19日(木) 10:00～11:00
場所：安芸太田町役場

○議事次第

- 1.開会
- 2.議事
 - (1) かわまちづくりの概要について
 - (2) 規約の規定について
 - (3) 協議会役員の選出について
 - (4) 現在の検討状況について
- 3.その他
- 4.閉会



○出席者名簿

所属	役職	氏名	備考
温井ネットワーク協議会	会長	佐々木 克己	
(一社) NUKUI OUTDOOR FIELD	代表理事	福田 真弓	
津浪振興会	会長	末田 健司	
ぶらっとホームつなみ		栗栖 開記	代理
太田川上流漁業協同組合	代表理事組合長	岡田 重男	
安芸太田町PTA連合会	会長	藤井 将和	
安芸太田町商工会	事務局長	末國 浩二	
(一社) 地域商社あきおおた	事業本部長	寶珠 真一	副会長
安芸太田町	道の駅推進チーム 担当課長	瀬川 善博	会長

○主なご意見

- かわまちづくり制度について
 - ・かわまち申請ポイントとなる「熱意の高さ」とは。(商工会)
 - 会議を通じて皆さまのご意見や地域の方のご意見を計画書へ反映することを示す。(太田川河川事務所)
- 規約案について
 - ・地縁団体の温井徳行会を加盟してはどうか。(温井ネットワーク協議会)
 - 承知した。(事務局)
 - ・協議会の最終目的はかわまち計画策定までとなるのか。
 - フォローアップを含むかわまち推進に係る協議を目的としている。第2条(目的)の文面を修正する。(事務局)
- 役員選出について
 - ・会長は安芸太田町 道の駅推進チームの担当課長 瀬川委員とする。
 - ・副会長は(一社)地域商社あきおおた事業本部長の寶珠委員とする。
- 検討状況について
 - ・意見聴取シートにて整備計画箇所の現状課題や拠点間の連携策についてご意見いただきたい。(事務局)

※太田川河川事務所、温井ダム管理所はアドバイザーとして参加

3.かわまちづくり計画の素案について 【内容確認】

計画概要

○かわまちづくりの方針・目的

令和7年3月策定の「第三次安芸太田町長期総合計画」や「第3期安芸太田町まち・ひと・しごと創生総合戦略」において「**人口減少の抑制（社会増を目指す）**」を重点方針に掲げ「**新生「道の駅来夢とごうち」を核とした観光まちづくりの推進**」「**太田川の自然と調和した快適な環境づくり**」「**地域資源を活かした産業の担い手育成**」を施策に位置付けている。

▶施策に基づく主な事業（かわまちづくり関係）

- ・町内観光地への誘客
- ・サイクルツーリズムの推進
- ・「地域商社あきおおた（DMO法人）」事業の推進
- ・河川・里山環境の保全
- ・インフラツーリズム・湖面利用の推進
- ・観光ガイド育成
- ・自然を生かした体験活動

▶かわまちと関連する事業

- ・道の駅来夢とごうち再整備
- ・加計スマートICフルインター化
- ・地域おこし協力隊事業推進
- ・伝統文化（神楽）の継承



○かわまちづくりの必要性

温井地区：ダム本体・湖面を活用したアクティビティの更なる推進

加計地区：交流館「かけはし」や月ヶ瀬温泉等施設の集客力を活用した拠点性の強化

津浪地区：東の玄関口である加計ICのフル化と連携して、河川とふれあえる環境整備

戸河内地区（整備完了済み）：西の玄関口である戸河内IC・道の駅と連携し、花見等で賑わう水辺・公園

⇒一体整備（ハード）と地区間連携（ソフト）による流域内の回遊性・滞在性の向上 ⇒関係・交流人口増 ⇒社会増

3.かわまちづくり計画の素案について 【内容確認】

計画概要

○定量目標

・津浪地区や温井地区における親水護岸整備やインフラツーリズムとも連携した取組を推進することにより、安芸太田町の交流人口・関係人口を増やし、将来的な社会増につなげる。

・定量目標（年間来訪者数）

温井ダム 5年間平均（R3～R7）： 3万人 × 2倍 →（R17）目標値：6万人
ぷらっとホームつなみ 5年間平均（R2～R6）： 3万人 × 2倍 →（R17）目標値：6万人

※R8年度計画登録、R12年度事業完了、R17年度モニタリング完了 を想定

定量目標の考え方：広島県の観光計画における数値目標及び直近5年間の地域の現状値を参考とする

温井ダム（ダム本体）

来場者数（千人）※現状は目視によるカウント。インフラツーリズムの取組開始後は、ツアー参加者や湖面利用者数も集計していく想定。

R7年度：31.391

R6年度：32.224

R5年度：31.556

R4年度：29.154

R3年度：23.207

5年間平均
29.506

約3万人

ぷらっとホームつなみ

レジ通過客数（千人）

R6年度：32.902

R5年度：33.655

R4年度：32.033

R3年度：34.666

R2年度：33.150

5年間平均
33.281

約3万人

〈参考数値〉

○ひろしま観光立県推進基本計画（R5年2月 広島県）

目標値 観光客数：3,966万人(R3) → 1億人(R12)

約2.5倍

3.かわまちづくり計画の素案について【内容確認】

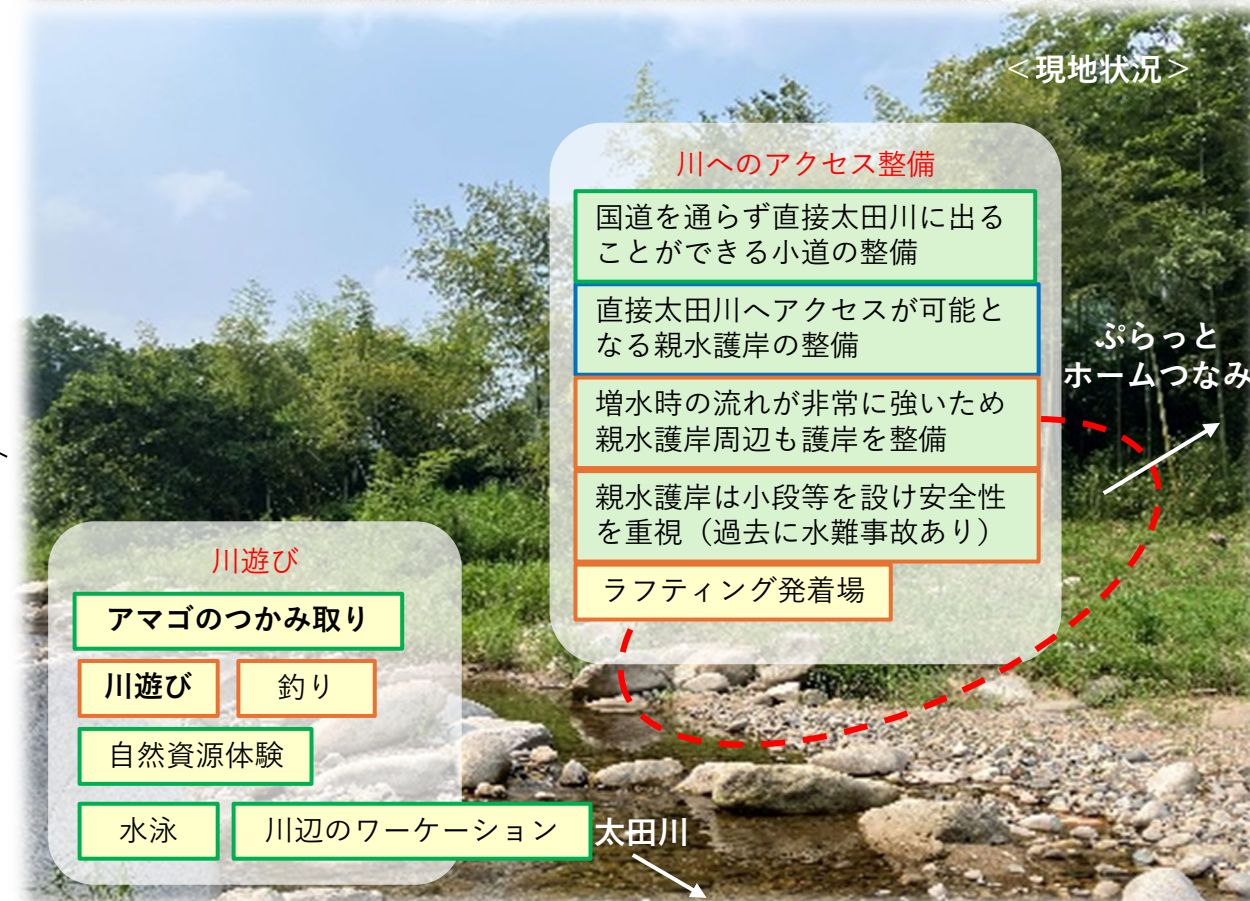
①津浪地区（ぶらっとホームつなみ周辺エリア）

●利活用・整備に関する地域のご意見



- 凡例1
- 整備の要望・アイデア
 - 利活用アイデア
 - 赤字：多数みられたご意見

- 凡例2
- 津浪振興会への意見聴取
 - ぶらっとホームつなみ打合せでのご意見
 - 第1回協議会での意見聴取



3.かわまちづくり計画の素案について【内容確認】

①津浪地区（ぶらっとホームつなみ周辺エリア）

●利活用・整備イメージ（案）

- ・交流拠点としての**トイレ、駐車場、ロードバイク駐輪場**の整備
- ・直接太田川へアクセスが可能となる**管理用通路（階段・坂路）**の整備



<整備イメージ>

ぶらっとホームつなみ

- 利活用メニュー
- 花・ホテルの見頃等の情報案内・発信
 - 伝統行事の場
 - ハイカーの交流拠点

- トイレの増設
案内表示板

- 駐車場の増設
ロードバイク駐輪場

- 河川敷
- 利活用メニュー
- ドッグラン
 - 憩い（ピクニック等）

- 太田川（水辺）
- 管理用通路（階段・坂路）
- 利活用メニュー
- ラフティング体験
 - 川遊び
 - 釣り
 - 自然体験（アマゴのつかみ取り等）

凡例

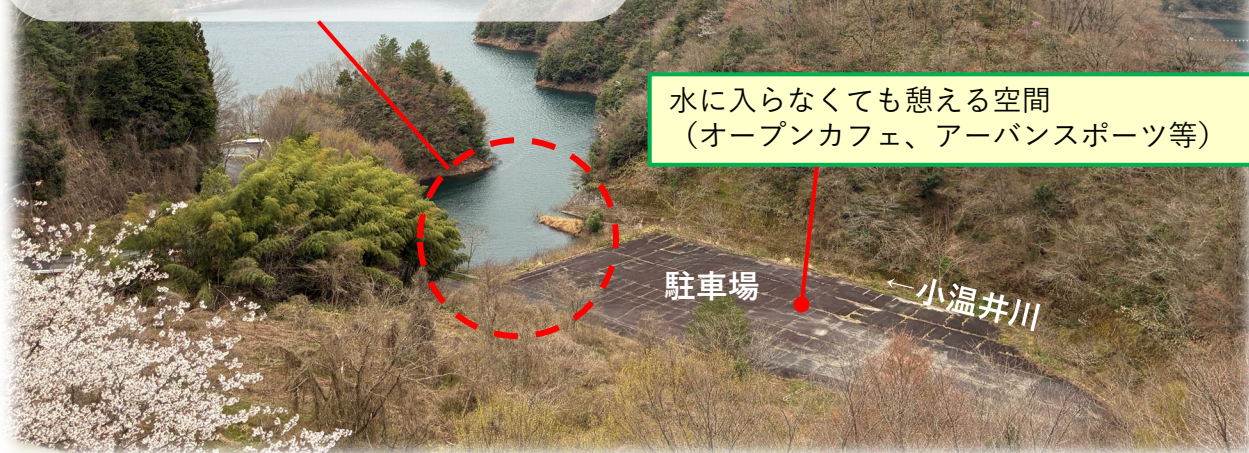
- 整備メニュー（国）
- 整備メニュー（町）
- 利活用メニュー

太田川

3.かわまちづくり計画の素案について【内容確認】

②温井地区（龍姫湖周辺・湖面エリア）

●利活用・整備に関する地域のご意見



凡例1	凡例2
整備の要望・アイデア	温井かわまちづくりWSでのご意見
利活用アイデア	第1回協議会での意見聴取

赤字：多数みられたご意見

<現地状況>

<現地状況>
グローバルリゾートNUKUIからの眺望

3.かわまちづくり計画の素案について【内容確認】

②温井地区（龍姫湖周辺・湖面エリア）

●利活用・整備イメージ（案）



- 凡例
- 整備メニュー（国）
 - 整備メニュー（町）
 - 利活用メニュー

- ・湖面へアプローチしやすくするための**管理用通路（坂路）**の再整備
- ・主に動力付きボートの船着場として利用（カヤック、SUP一般利用者とのすみ分け）



- ・駐車場からつながる湖岸を利活用するための**管理用階段**の整備
- ・主にカヤック、SUPなどの一般利用、湖面から小温井川へのアクセス路として利用



3.かわまちづくり計画の素案について【内容確認】

③ 温井地区（龍姫湖周辺・半島エリア）

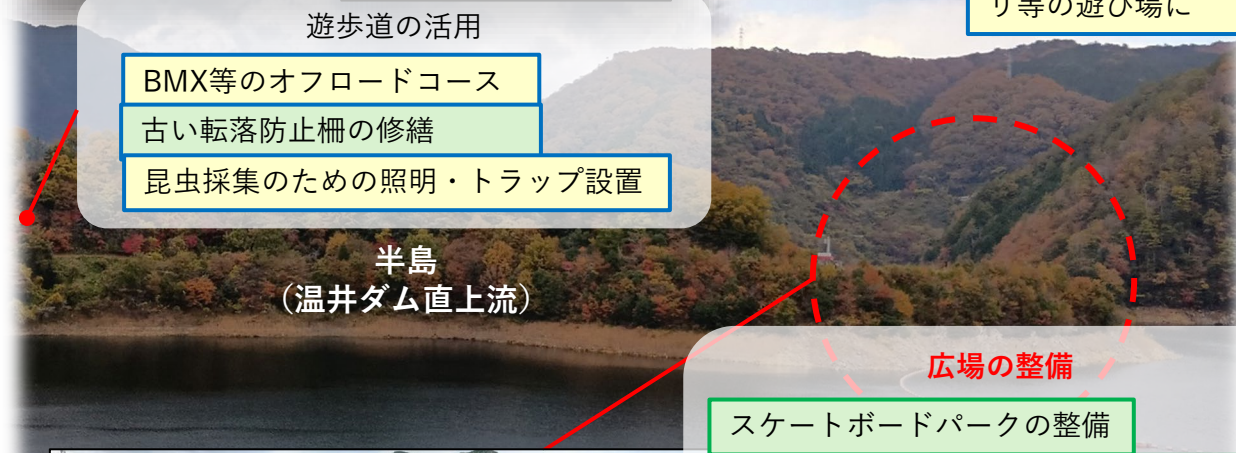
● 利活用・整備に関する地域のご意見



< 現地状況 >

- 半島と対岸を結ぶジップラインの整備
- 除雪した雪を用いてソリ等の遊び場に

- 遊歩道の活用
- BMX等のオフロードコース
 - 古い転落防止柵の修繕
 - 昆虫採集のための照明・トラップ設置

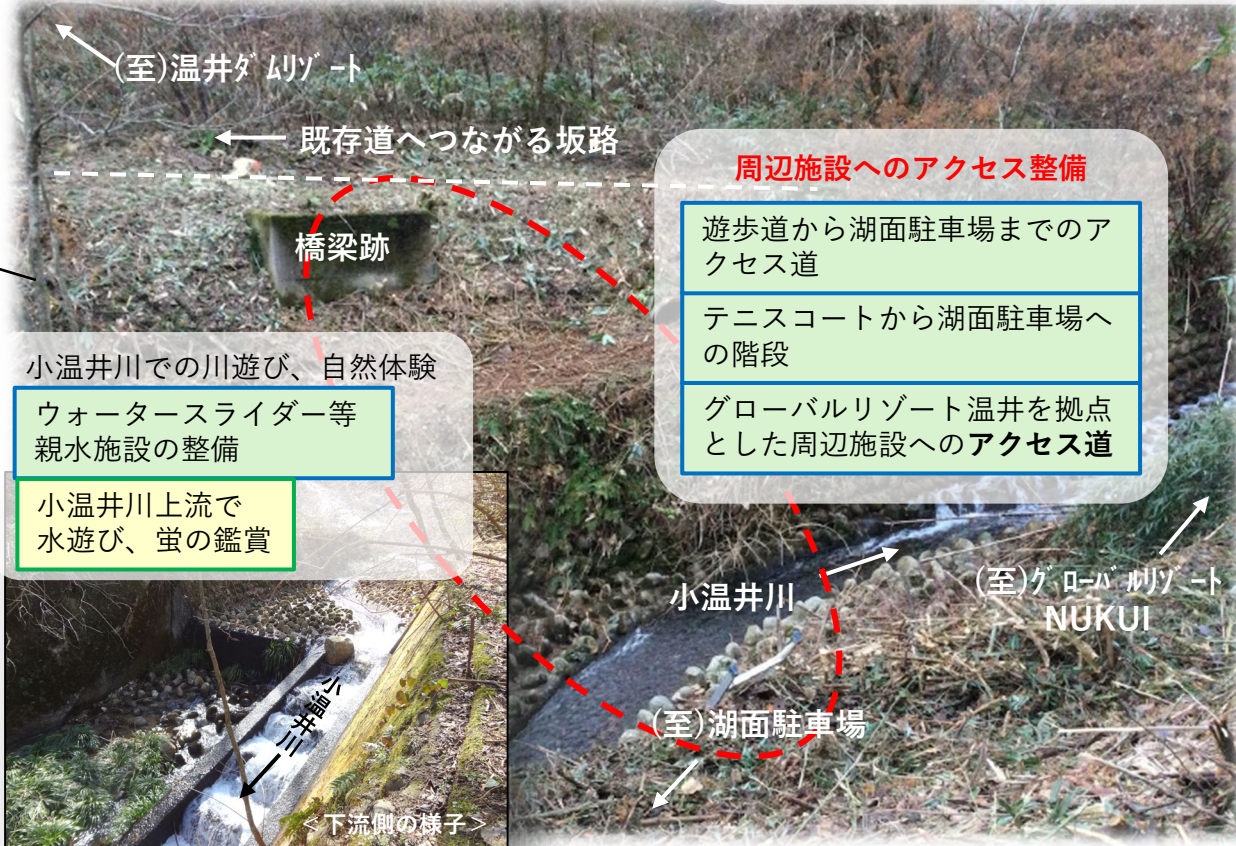


半島
(温井ダム直上流)

- 広場の整備
- スケートボードパークの整備
 - ドライブイン 「龍姫の像」設置
 - ヨガ等のフィットネス施設整備
 - 半島内に天体観測場や湖畔カフェを整備
 - 湖上グランピングの整備



< 半島先端部の様子 >



- 周辺施設へのアクセス整備
- 遊歩道から湖面駐車場までのアクセス道
 - テニスコートから湖面駐車場への階段
 - グローバルリゾート温井を拠点とした周辺施設へのアクセス道

- 小温井川での川遊び、自然体験
- ウォータースライダー等親水施設の整備
 - 小温井川上流で水遊び、蛍の鑑賞



< 下流側の様子 >

凡例1	凡例2
整備の要望・アイデア	温井かわまちづくりWSでのご意見
利活用アイデア	第1回協議会での意見聴取

赤字：多数みられたご意見

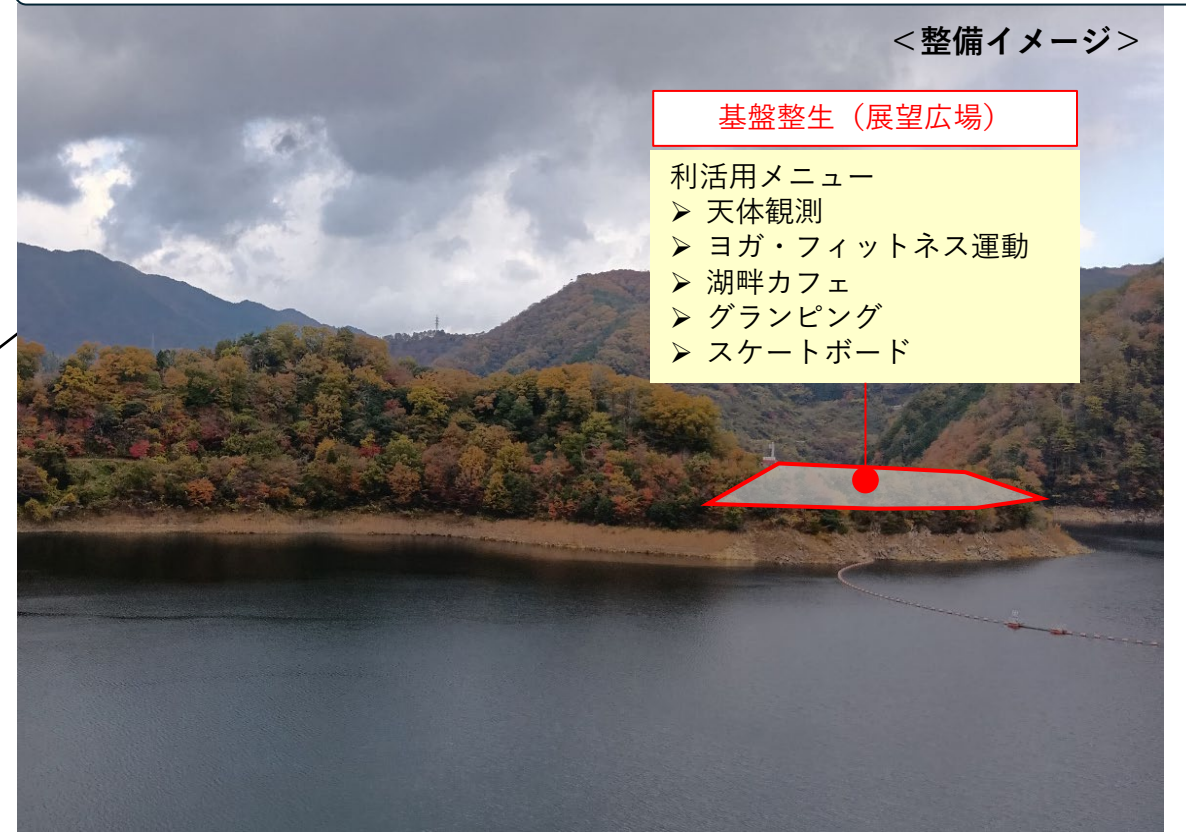
3.かわまちづくり計画の素案について【内容確認】

③温井地区（龍姫湖周辺・半島エリア）

●利活用・整備イメージ（案）



・半島から湖面一帯を見渡せる**基盤整生（展望広場）**を整備



・半島への回遊性を高めるための**管理用通路・階段（遊歩道）**を整備



凡例

整備メニュー（国）

整備メニュー（町）

利活用メニュー

3.かわまちづくり計画の素案について【内容確認】

④温井地区（ダム堤体・滝山川エリア）

●利活用・整備に関する地域のご意見



ダム放流の様子

<現地状況>

学習ツアー

ダム内部の見学ツアー

学生向け川とダムの学習ツアー

バンジージャンプ等の降下アクティビティ

ダム放流が一望可能な場所に渡り橋を整備

ダムでのイベント

プロジェクションマッピング、花火

夜間のダム放流

ドローンショー

売店の出店

ダムの高さがエジプトのピラミッドと同等であること
にあやかり「逆さピラミッド登頂（階段下り）」イ
ベントの実施

滝山川の様子

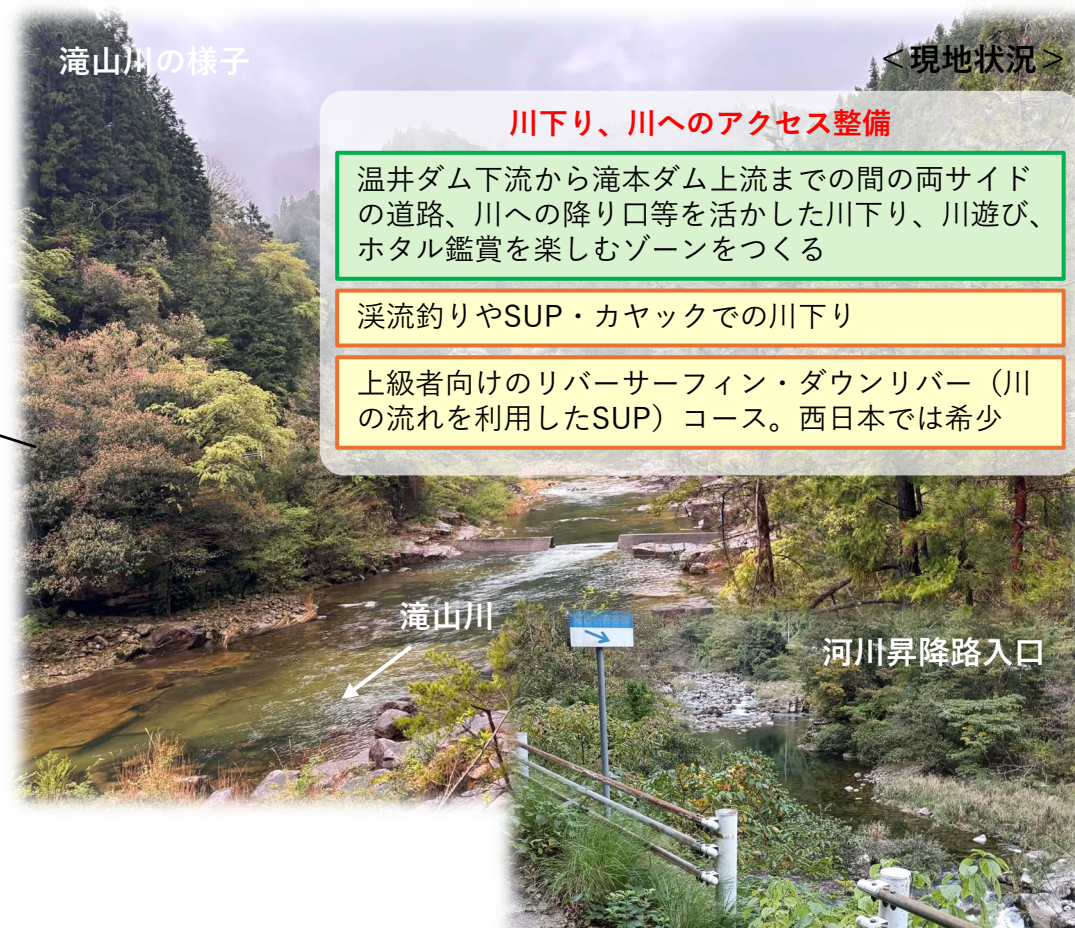
<現地状況>

川下り、川へのアクセス整備

温井ダム下流から滝本ダム上流までの間の両サイド
の道路、川への降り口等を活かした川下り、川遊び、
ホタル鑑賞を楽しむゾーンをつくる

渓流釣りやSUP・カヤックでの川下り

上級者向けのリバーサーフィン・ダウンリバー（川
の流れを利用したSUP）コース。西日本では希少



津浪地区を起点として温井ダムまで徒歩、自転車
で往復する自然満喫散策・サイクリングコースを設置

凡例1

凡例2

整備の要望・アイデア

利活用アイデア

赤字：多数みられたご意見

温井かわまちづくりWSでのご意見

第1回協議会での意見聴取

地区間連携についての意見交換会での
意見（事業者意見）

3.かわまちづくり計画の素案について【内容確認】

④温井地区（ダム堤体・滝山川エリア）

●利活用・整備イメージ（案）

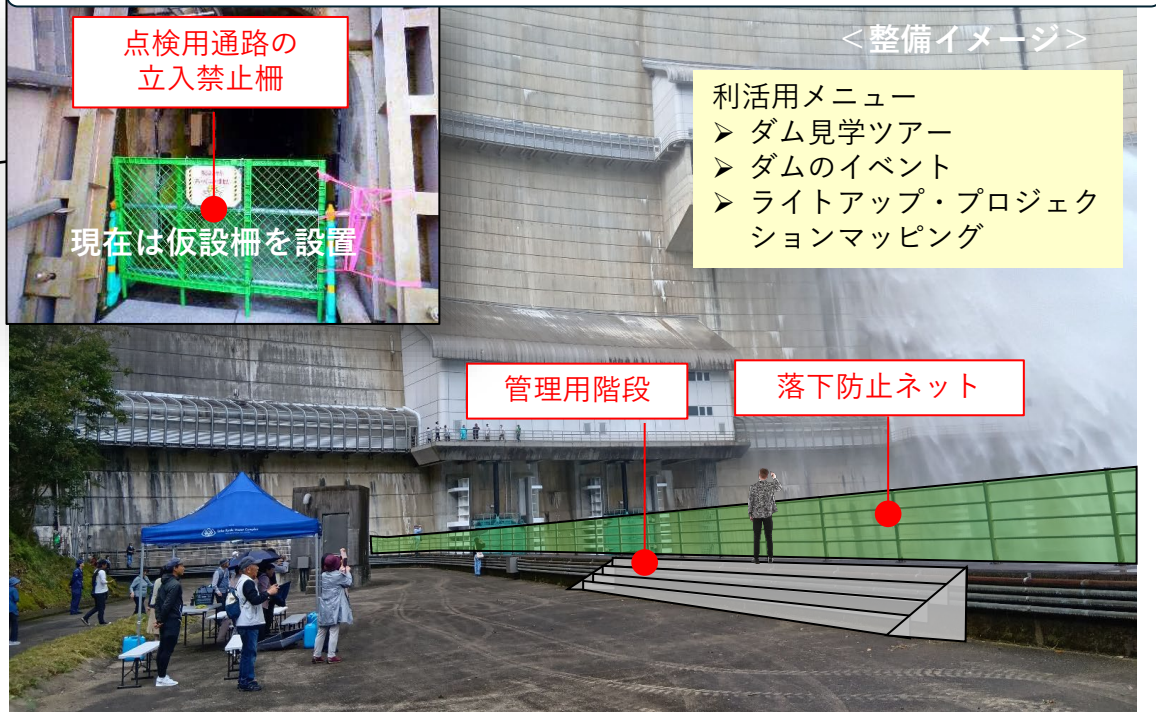


・サイクリングコース沿いから川へのアクセスを高めるため河川昇降路を再整備



- 凡例
- 整備メニュー（国）
 - 整備メニュー（町）
 - 利活用メニュー

・ダム堤体利活用のための管理用階段、安全対策（落下防止ネット、立入禁止柵）を整備



・ダムをつなぐサイクリングコース新設のため、落石対策、管理用通路、案内表示板、ロードバイク駐輪場を整備



3.かわまちづくり計画の素案について【内容確認】

利活用・整備計画

	場所	利活用メニュー	整備メニュー	整備役割	
				国	町
津浪地区	ぶらっとホーム つなみ周辺	<ul style="list-style-type: none"> ■ぶらっとホームつなみ <ul style="list-style-type: none"> ・ 花・ホテルの見頃等の情報案内・発信 ・ 伝統行事の場 ・ ハイカーの交流拠点 ■河川敷 <ul style="list-style-type: none"> ・ ドッグラン ・ 憩い（ピクニック等） ■太田川（水辺） <ul style="list-style-type: none"> ・ ラフティング体験 ・ 川遊び ・ 釣り ・ 自然体験（アマゴのつかみ取り等） 	管理用通路（階段・坂路）	●	
			駐車場・ロードバイク駐輪場		●
			案内表示板		●
			トイレ		●
温井地区	龍姫湖周辺	<ul style="list-style-type: none"> ■湖面エリア <ul style="list-style-type: none"> ・ 巡視船 ・ 遊覧船 ・ ウェイクサーフィン ■湖面エリア <ul style="list-style-type: none"> ・ カヤック、SUP ・ 湖面ツアー ・ オープンカフェ ・ アーバンスポーツ ・ 憩い（ピクニック等） ■半島エリア <ul style="list-style-type: none"> ・ 天体観測 ・ ヨガ・フィットネス運動 ・ 湖畔カフェ ・ グランピング ・ スケートボード ■半島エリア <ul style="list-style-type: none"> ・ 周辺施設⇄湖面へのアクセス ・ 散策 ・ 川遊び・自然体験 	管理用通路（坂路）	●	
			管理用階段	●	
			基盤正整（展望広場）	●	
			管理用通路・階段（遊歩道）	●	
	ダム堤体	<ul style="list-style-type: none"> ・ ダム見学ツアー ・ ダムのイベント ・ ライトアップ・プロジェクションマッピング 	落下防止ネット・管理用階段	●	
			点検用通路の立入禁止柵	●	
	滝山川	<ul style="list-style-type: none"> ・ 川下り・川遊び ・ 釣り ・ 自然体験（蛍鑑賞等） ・ サイクリング ・ 散策 	河川昇降路	●	
			落石対策・管理用通路（サイクリングルート）	●	
			案内表示板		●
				ロードバイク駐輪場	

3.かわまちづくり計画の素案について【内容確認】

維持管理計画

【津浪地区】

- 『ぷらっとホームつなみ』は地域の交流拠点として住民が管理運営を行い、日常的に利用されている。地域行事のほか、周辺の河川敷では自然体験（アマゴのつかみ取り等）の活動が行われている。
- しかし後継者不足の課題があるため、今後は**新たな世代や事業者の参画を見据え、維持管理方針、具体的な運用、利活用上のルールについて、地域住民および関係部局と協議**を行いながら、具体的な内容を検討していく。



地域行事（春祭り）の様子

【温井地区】

- R7.3に龍姫湖の湖面一帯は河川敷地占用許可準則に基づく「都市地域再生等利用区域」の指定を受けており、安芸太田町占用のもと、事業者（一社 NUKUI OUTDOOR FIELD）がウェイクサーフィンやカヌー・SUP等のアクティビティを中心とした事業を実施し、占用施設の管理及び清掃などの維持管理を行っている。
- 整備後も引き続き、地域住民・事業者による運営・維持管理を予定している。**
- 整備箇所の維持管理方針、具体的な運用、利活用上のルールについては今後、事業者や地域住民、温井ダム管理所、その他関係部局と協議**を行いながら、具体的な内容を検討していく。



ウェイクサーフィンの様子

役割分担（案）

場所	整備メニュー	国	町	地域住民・事業者	備考	
津浪地区	管理用通路（階段・坂路）	整備・補修		日常管理		
	ぷらっとホーム つなみ		整備・補修	日常管理		
	案内表示板		整備・補修	日常管理		
	トイレ		整備・補修	日常管理		
温井地区	管理用通路（坂路）	整備・補修		日常管理		
	管理用階段	整備・補修		日常管理		
	龍姫湖周辺	基盤正整（展望広場）	整備・補修	日常管理		
	管理用通路・階段（遊歩道）	整備・補修		日常管理		
	ダム堤体	落下防止ネット・管理用階段	整備・補修		日常管理	
		点検用通路の立入禁止柵	整備・補修・日常管理			
	滝山川	河川昇降路	整備・補修		日常管理	
		落石対策・管理用通路（サイクリングルート）	整備・補修		日常管理	
		案内表示板		整備・補修	日常管理	
		ロードバイク駐輪場		整備・補修	日常管理	

4. 地区間連携や全体コンセプトについて【意見交換】

地域のご意見 「第1回 安芸太田町かわまちづくり協議会（意見聴取シートより）」

- ハード面については、**二次交通**（周遊バスやサイクリング）のための環境整備や、**川遊び団体受け入れ**の環境整備（バスの駐車場、川へのアクセス、日陰等）、**加計地区周辺でのアクティビティ**（ダウンリバー、スラローム等）のための環境整備、**観光案内版**の設置がニーズとして挙げられている。
- ソフト面については、川辺を**イベント利用**（マルシェやライトアップ、音楽祭、地域行事）や**日常利用**（散策、サイクリング、カフェ、キャンプ、ワークスペース）の場として活用したいといった意見のほか、地区間の賑わい創出のため各団体・拠点が連携し、**観光コンテンツ・教育プログラム等の造成**（周遊コースの設定、学習ツアー、企業・一般向け誘客プログラム）や**多方面への情報発信**がニーズとして挙げられている。

観光コンテンツ・教育プログラム等の造成

風災窯やたたら歴史、川舟の歴史等安芸太田の**歴史文化**をツアーに取り入れる

川を活用した地域の**教育プログラム**や**町民向け**の支援

企業や団体向けの**誘客促進プログラム**の造成及び販売

一般受け入れ向けのプログラムづくりと販売

「川を歩く→食べる→買う→泊まる」を一連の**体験**に

川魚や**地域ならではの食材**を存分に楽しめる食事

上流域の役割や価値を伝えるプログラム（**社会見学・旅行**）を企画し、環境保全や教育、地域が誇りを持つ町づくりにつなげる

川遊びの**団体受け入れ**ができる場所（バスの駐車場、川までの移動、暑さ対策を考慮）を整備

二次交通

各コンテンツをつなぐ**周遊バス**などの社会実験

二次交通の確保（**町全域**を楽しめる環境整備）



イベント利用

川辺のイベント（**マルシェ・ライトアップ・音楽祭**など）

町の行事が風物詩としてマスコミ等に取り上げられるような**目玉**をつくる（来訪者参加型の行事など）

地域行事の整理・統合を検討（費用の重点的・効果的な支出、行事集約と規模拡大）

日常利用

川沿いの利活用（**カフェ・キャンプ・ワークスペース**）

情報発信

広島等から来てもらうべく**宣伝**

ネット配信等による誘客

他地域へ**プログラムの紹介**

全国的な認知度向上のため取組みを国土交通省や観光庁等の**プレスリリース**等で広報・周知

町内の**観光案内板**（英語案内）の整備や増設

4.地区間連携や全体コンセプトについて【意見交換】

地域のご意見 「地区間連携についての意見交換会」

地区間連携についての意見交換会

日時：令和8年4月10日(金) 15:00～16:30

場所：安芸太田町役場

出席者：(一社) NUKUI OUTDOOR FIELD、(一社) 地域商社あきおおた、安芸太田町、太田川河川事務所、温井ダム管理所



○地区間連携の意見要約

①連携テーマの設定

- ・津浪、戸河内～三段峡は「自然」
- ・津浪～加計～温井ダムは「水を知る・学ぶ」
- ※入口は『津浪』

②アクティビティ連携

- ・ダムツアーとサイクリングのタイアップ

③学習ツアーの造成

- ・水について学ぶ学生ツアー
- ・川・森・文化・交流センターを活用

④団体間連携による情報発信

- ・道の駅やぶらっとホームつなみを情報発信の拠点に
- ・団体の垣根を越えた情報発信（合同周遊冊子の作成）

項目	ご意見
連携テーマの設定	三段峡は自然の素晴らしさをテーマに、温井～加計エリアは「水を知る・学ぶ」をテーマにしてはどうか。温井ダムのインフラとしての構造美や機能の大きさを、SUP・カヤックで湖面利用しながら感じてもらうというアプローチの方法が考えられる。
	安芸太田町の周遊ルート「水」というテーマでつなぎ、立ち寄りながら学べるようにできるとよいのではないかと考える。
アクティビティ連携	NUKUI OUTDOOR FIELDが実施する右岸側のダム見学ツアーと自転車イベントのタイアップも考えられる。
学習ツアーの造成	地域商社あきおおたの寶珠氏も、温井ダムの水が供給されている地域の学生が水について学べるツアーを造成して今後PRしたいと言っていた。そのような取り組みに川・森・文化・交流センターを活用できるのではないかと考える。広島市内で活動されているRiverDo!の方も、市内の子どもたちに太田川流域のことを川・森・文化・交流センターで学んでもらい、上流域が下流域の発展を支えていることを知ってほしいとのことであった。
	NUKUI OUTDOOR FIELDについても、学校教育の中で活用してほしいという思いがある。子どもたちの基礎知識の形成につながり、未来にもつながっていくと考える。
団体間による情報発信	津浪地区は「川を知る」入口のような位置付けが考えられないか。津浪地区は名前通り「ぶらっと」人が来る場所なので、入口としての情報発信を行い、温井地区にも寄り道してもらえないかと考える。
	棚田を見て、鯛焼きを食べて、温井ダムに来てもらえるよう、津浪地区で情報発信ができれば地区間がつながるのではないかと考える。
	安芸太田町全体の案内チラシを作成し、リニューアルされる道の駅などで情報発信を行うことができればと考える。
社会実験	例えば水をテーマに、町が指揮をとり、商工会や地域の団体がそれぞれの役割をもって周遊冊子をつくるというようなことができないか。
	津浪地区の入り口としての機能を検証するために、ぶらっとホームつなみで観光放流についてのチラシを配り、どれだけ温井地区に来る人が増えるのかという社会実験を実施したい。交流館かけはし等の拠点への立ち寄りも検証できれば。
滝山川の利活用	地域のニーズとしては溪流釣りやSUP・カヤックでの川下りが考えられる。上級者向けのダウンリバー（川の流れを利用したSUP）コースとしてよいのではないかと考える。西日本にあまりそのような場所がないため、利用できると面白い。見通しが悪い場所なので、ガイド付きであれば可能であると考えられる。
	聖湖などはSUPの初心者などが利用するが、滝山川であれば上級者が利用し、1回では攻略できないため、何度も訪れる場所になるのでは。

4. 地区間連携や全体コンセプトについて【意見交換】 ① 地区間連携イメージ

- 安芸太田町の観光資源は点在しており、それを結ぶ周遊ルートやストーリー性がなく、滞在時間を延ばす仕掛けが少ないことが課題として挙げられる。
- 加計スマートICのフル化により、西(山口)方面からの観光客の増加が期待でき、玄関口となる道の駅来夢とごうち、プラットホームつなみが情報発信の拠点を担うことで、町内の観光施設を巡る新たな周遊ルートの確保や、新たな観光スタイルとなるマイクロツーリズムが増加するなど、地域振興の活性化が期待される。

連携テーマ

.....

戸河内地区～三段峡
「自然を満喫する」

津浪地区～加計地区～温井ダム
「水を知る・学ぶ」

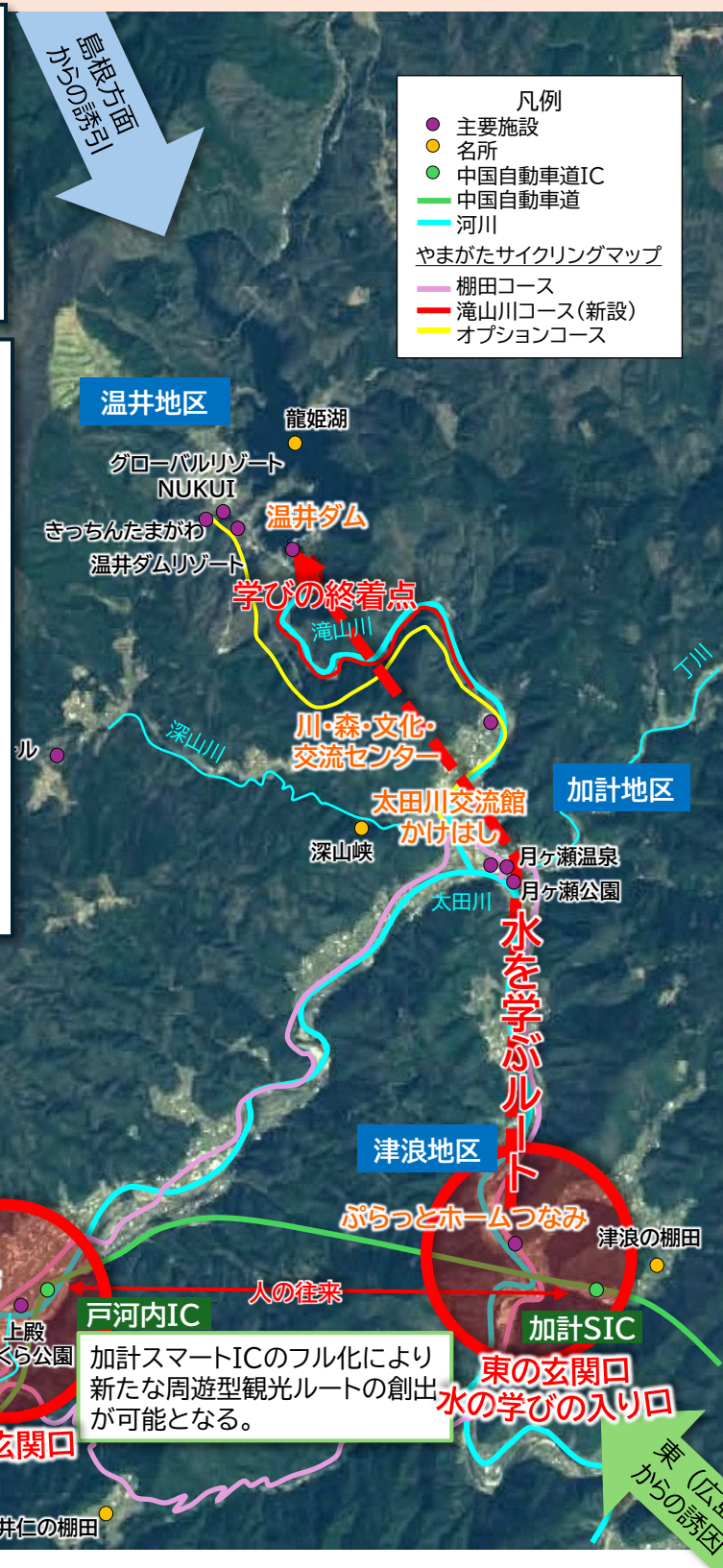
- 連携方策(案)**
-
- ①二次交通の整備
 - ・周遊バスの社会実験
 - ・サイクリングロード整備 ・ヘリポートの貸出 等
 - ②アクティビティ連携
 - ・ダム見学ツアーとサイクリングイベントのタイアップ 等
 - ③観光コンテンツ・教育プログラム等の造成
 - ・津浪地区～温井ダムの各拠点を巡り、水について学ぶツアー
 - ・学習ツアーによる広島市内からの学生・団体誘致
 - ・川・森・文化・交流センター(学習拠点)の活用
 - ・企業、団体、一般向け誘客プログラム販売 等
 - ④団体間連携による情報発信
 - ・道の駅やぷらっとホームつなみを情報発信の拠点として活用
 - ・団体の垣根を越えた情報発信(合同周遊冊子の作成等) 等



- 温井地区**
- ・インフラツーリズム (ダム見学・放流見学)
 - ・ウォーターアクティビティ
 - ・ダム湖を活用したイベントの実施
 - ・サイクリング拠点
 - ・宿泊(ホテル・グランピング)
 - ・レストラン



- 戸河内地区**
- ・観光案内(西の玄関口)
 - ・サイクリング拠点
 - ・安芸太田町の名産品販売
 - ・マルシェの定期的開催
 - ・レストラン、軽食販売
 - ・公園



- 加計地区**
- ・学習拠点・交流拠点
 - ・観光案内
 - ・サイクリング拠点
 - ・地域のイベント会場
 - ・立ち寄り温泉
 - ・軽食・食事処



- 津浪地区**
- ・観光案内(東の玄関口)
 - ・サイクリング拠点
 - ・交流拠点
 - ・地元野菜、川魚の炭火焼き、軽食販売
 - ・太田川を活用したイベントの実施
 - ・環境学習・自然体験の場

4. 地区間連携や全体コンセプトについて【意見交換】 ②全体コンセプト

○かわまちづくりの目標（基本理念）

- ・かわまちづくりの目指すべき方向性であり、計画策定～推進まで長期的な指針として運用していくもの
- ・検討を進めるなかで、方向性を見失ったときに立ち返るための基本理念となる
- ・町の政策との整合性や、ステークホルダー（みなさま）の意見を取り入れた内容にすることがポイント

案①: キーワード【学び】【流域をつなぐ】

- 清流太田川とともに学び、流域をつなぐ安芸太田かわまちづくり
- 温井ダムから広がる学びの輪、流域でつながる安芸太田

案②: キーワード【賑わい】【ツーリズム】

- 清流太田川と温井ダムがつなぐ、学びと体験の賑わいづくり
- 清流太田川と温井ダムの、人と自然が織りなす新たなツーリズム

案③: キーワード【次世代へつなぐ】

- 温井ダムから清流太田川へ つながる・つなぐ水辺づくり
- 清流太田川と歩む、学びでつなぐ未来の安芸太田

その他考えられるキーワード

自然、交流、歴史文化、融合、共生、調和、上質、唯一無二、豊か、恵み、癒し、継承、インフラツーリズム、回遊

他河川の事例（かわまち大賞受賞地区）

- ・石狩川(北海道)／砂川地区かわまちづくり・・・魅力的な水辺空間とすながわスイーツを融合した官民連携のまちづくり
- ・沙流川(北海道)／平取町かわまちづくり・・・沙流川の歴史と文化継承を活かした賑わいづくり
- ・多摩川(静岡県)／聖蹟桜ヶ丘かわまちづくり・・・川を起点に賑わい広がる持続可能なかわまちづくり
- ・木曾川(岐阜県)／大垣市かわまちづくり・・・水門川を動線としたウォークアブルシティとしての賑わいの場の創出
- ・五ヶ瀬川(宮崎県)／五ヶ瀬川かわまちづくり・・・【水郷のまち延岡】の3つの拠点の特性を活かしたかわまちづくり

○キャッチコピー

- ・基本理念のエッセンスを凝縮し、住民や来訪者の心に響くような簡潔で印象的なPRフレーズ
- ・地域の特徴や他地域との差別化（太田川らしさ、安芸太田町ならではの）、ターゲット層が感じられる内容にすることがポイント
- ・多様な場面での活用を想定（イベント、ロゴ制作、複数メディアによる情報等）

他河川の事例（かわまち大賞受賞地区）

- ・信濃川(新潟県)／信濃川やすらぎ堤かわまちづくり・・・ミズベからにぎわいを、まちへ。 ※ミズベリングの取り組みによって多様な主体が連携し、賑わいある水辺づくりを目指す
- ・吉野川(徳島県)／内町・新町地区かわまちづくり・・・笑顔みちる「ひょうたん島」 ※中州(通称、ひょうたん島)の水辺を活用した賑わい創出をめざす
- ・五ヶ瀬川(宮崎県)／五ヶ瀬川かわまちづくり・・・天下一五ヶ瀬かわまち ※全国に誇れる天下一の川づくり・まちづくりを目指す

5.今後の予定

【今後の予定】

- ・今回の意見を踏まえてかわまちづくり計画を事務局で更新
- ・次回協議会は5月頃を予定。内容は、かわまちづくり計画申請前の最終確認

		令和7年度						令和8年度		
項目		10月以前	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
かわまち協議体	温井ネットワーク協議会	・ワークショップ（8月）		・協議会		・協議会		・協議会		
	津浪地区振興会	・打合せ（7月）	・打合せ							
	安芸太田町		・かわまち計画の概要作成			・かわまちづくり協議会（第1回） ・計画書骨子作成	・計画書案作成（中旬）	・地区間連携に関する意見交換会 ・かわまちづくり協議会（第2回） ・計画書素案作成	・かわまちづくり協議会（第3回） ・計画書確認	・登録申請（下旬）
かわまち支援制度への申請		・事前ヒア1回目（局）					・事前ヒア2回目（局）		・事前ヒア3回目（局）	
太田川総合水系環境整備事業の事業再評価			・プレアンケート					・アンケート案検討	・調査計画検討	・アンケート調査

↓

8月：局内審査
 9月：県への意見照会
 10月：河川整備懇談会
 12月：事業評価監視委員会

参考：地区間連携に関する意見聴取シートでのご意見 一覧

全体に関するご意見

観光コンテンツ・教育プログラム等の造成

風炎窯やたたらの歴史、川舟の歴史等安芸太田の歴史文化をツアーに取り入れる

川を活用した地域の教育プログラムや町民向けの支援

企業や団体向けの誘客促進プログラムの造成及び販売

一般受け入れ向けのプログラムづくりと販売

「川を歩く→食べる→買う→泊まる」を一連の体験に

川魚や地域ならではの食材を存分に楽しめる食事

上流域の役割や価値を伝えるプログラム（社会見学・旅行）を企画し、環境保全や教育、地域が誇りを持てる町づくりにつなげる

ぷらっとホームつなみを起点として温井ダムまで徒歩、自転車で往復する自然満喫散策・サイクリングコースを設置（道中の加計市街地での休憩場所の確保も検討）

川遊びの団体受け入れができる場所（バスの駐車場、川までの移動、暑さ対策を考慮）を整備

二次交通

各コンテンツをつなぐ周遊バスなどの社会実験

二次交通の確保（町全域を楽しめる環境整備）

イベント利用

川辺のイベント（マルシェ・ライトアップ・音楽祭など）

町の行事が風物詩としてマスコミ等に取り上げられるような目玉をつくる（来訪者参加型の行事など）

地域行事の整理・統合を検討（費用の重点的・効果的な支出、行事集約と規模拡大）

日常利用

川沿いの利活用（カフェ・キャンプ・ワークスペース）

情報発信

広島等から来てもらうべく宣伝

ネット配信等による誘客

他地域へプログラムの紹介

全国的な認知度向上のため取組みを国土交通省や観光庁等のプレスリリース等で広報・周知

町内の観光案内板（英語案内）の整備や増設

広域的な販促戦略

具体的な方針やターゲット、戦略などを地域事業者や町民と共有し、対応する具体的な行動を集めて推進

山と川がもたらす海とのつながりを通じた瀬戸内エリア/日本海エリアなどとの連携

期待できる効果

多くの人々が遊びに来ることで売店、ホテル、レストラン等の需要が増加するとともに、新たな雇用の創出も期待できる

川、ダムの様々な事業により高齢者、U・Iターン者、外国人等の雇用先の確保が可能となる

ハードに関するご意見

ソフトに関するご意見

特定の地区に対するご意見

温井エリアではターゲットを絞りちょっと上質なサービスを提供する戦略をとりたい（受入キャパが少ない分的を絞る）

太田川交流館かけはし前でSUPやカヤックのスタートコースの増設

道の駅でも太田川を活用したコンテンツの受入れ

加計～津浪周辺で中上級者向けのダウンリバー

課題・その他ご意見

観光・教育プログラムや各種コンテンツの受入れについては地域との協議が必要

限られた予算で多くの人を楽しんでもらうためには拠点間や地区間が連携した取り組みが重要

実証実験など、かわまちづくりと併せて、ソフト面もしっかり進行すべき

「かわまちづくり」はとても興味深い計画だが実施の効果が重要

関係機関が連携し安芸太田町の来訪者が少なくとも1日は遊べ、再訪したいと思うものに作り上げる必要がある

手頃な費用で幅広い人々が楽しめる川・湖面の活用を検討することが大切